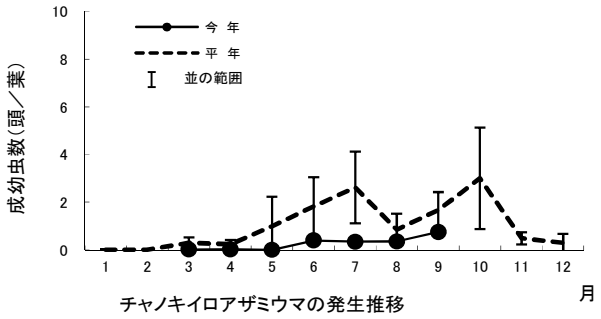
平成　29 年度

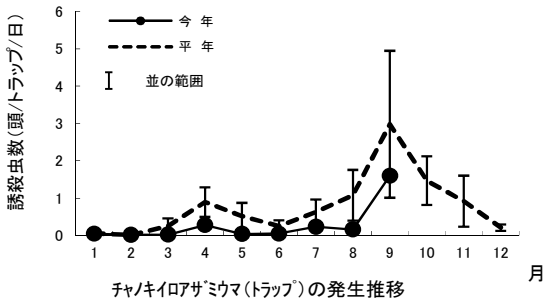
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
9 月の発生量（現況）	やや少		
10 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移、新梢の発生が続いていること、今後１ヶ月の気温が高い見通しから、9月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

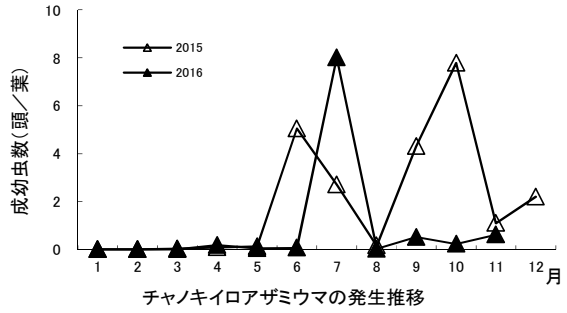
- 9月下旬の調査の結果、葉当たり成虫・幼虫数は0.8頭（前年0.5頭、平年1.7頭)と平年よりやや少なかった。
- 9月の黄色粘着トラップへの日・トラップ当たり誘殺虫数は1.6頭（前年1.3頭、平年3.0頭）と平年並であった。

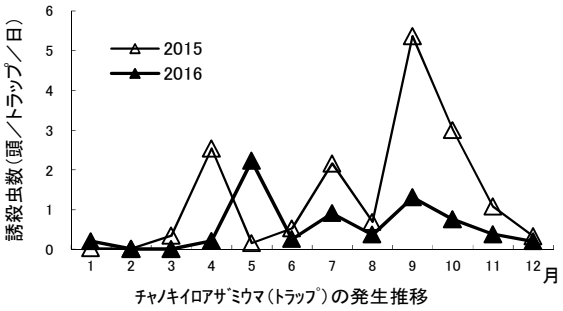
（今年のデータ）





（過去２年のデータ）





防除のポイント

- 新梢発生期には本種が増加する傾向にあるので、早期発見・防除を行う。
- 不要な新梢は、早い時期に除去する。
- 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- 平成29年度病害虫発生予報第5号（平成29年7月27日付）コラム参照。

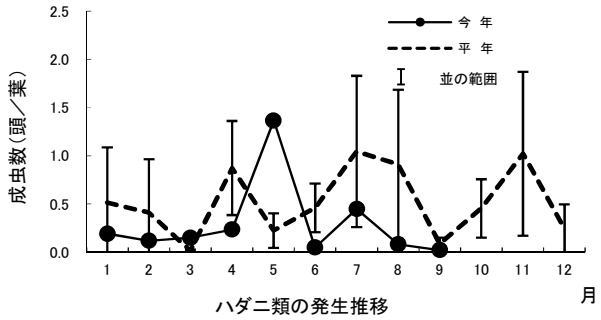
平成　29 年度

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	② ハダニ類		
9 月の発生量（現況）	やや少		
10 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移、今後１ヶ月の気温が高い見通しから、9月より発生量は増加すると考えられる。		

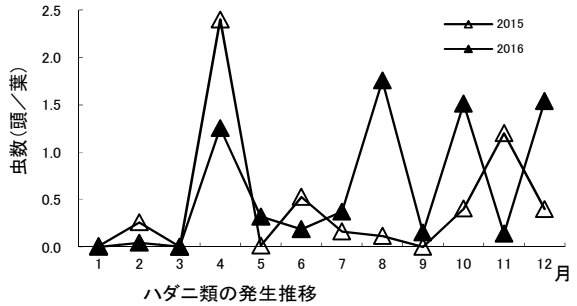
発生量の根拠（調査結果）

- 9月下旬の調査の結果、成葉の葉当たり雌成虫数は0.1頭未満（前年0.2頭、平年0.1頭)と平年よりやや少なかった。また、新葉の葉当たり雌成虫数は0.1頭であった。
- 発生種は、全てシュレイツメハダニであった。

（今年のデータ）



（過去２年のデータ）



防除のポイント

・晩秋にかけて発生が多くなるので、発生ほ場では早期発見・防除を行う。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
・平成29年度病害虫発生予報第5号（平成29年度7月27日付）コラム参照。

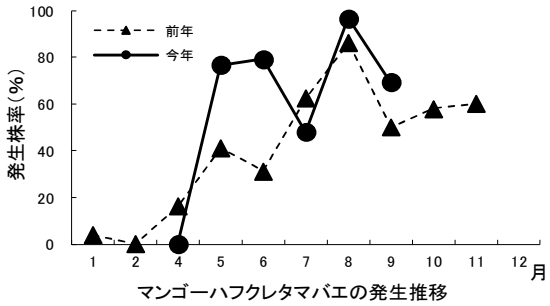
平成　29 年度

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	マンゴーハフクレタマバエ		
9 月の発生量（現況）	判定不可		
10 月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	新梢の発生が続いていること、今後1ヶ月の気温が高い見通しから、発生が継続すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

- 9月下旬の調査の結果、発生株率は69.3%（前年50.0%)、発生ほ場率は100%（前年100%）であった。
- データの蓄積不足のため、判定保留。

（今年のデータ）



マンゴーハフクレタマバエの発生推移

防除のポイント

・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。

・新梢発生期には本種が増加する傾向にあるので、早期発見・防除を行う。

・不要な新梢は、早い時期に除去する。

・平成29年度病害虫発生予報第5号（平成29年7月27日付）コラム参照。